

# 後輩へのメッセージ

(奨学生に贈る言葉)



平成 29 年度卒業生

## 大沼 幸暉 (北海道大)

大学の4年間では勉強はもちろん大切ですが、友人をつくることやまだ見ぬ世界を見てみるなど、今しかできないことにも挑戦することをオススメします。

勉強は頑張った分だけ報われます。これは事実です。しかし！会社にはいると「勉強もつとしておけばよかった」と色んな人から聞きます。結局いつまでも学ぶことは必要なのです。

それならいっそ幅広い世界を知るために4年間をユニークにデザインしても良いのではと私は思います。

## 伊木 裕美 (青山学院大)

大学の頃は時間がたくさんあり、やりたいことができる環境であると思うので、後悔のないよう興味や関心をもったことは何事にも挑戦すべきだと思います。そして自身の将来のためにも努力して頑張ってください。

私は毎年交流会に出席し、奨学生の優秀さにいつも驚いていました。私よりも優秀で尊敬できる奨学生の皆様なら、素敵な将来が待っていると信じています。

## 浅井 慶子 (慶應義塾大)

チャレンジ精神の大切さ、そして努力の大切さを伝えたいです。失敗を恐れずにどんなことでもとりあえずやってみる。そして新たなことを始めたときは、自分が納得のいくところまで努力をし続ける。そうした努力をすることで必ず成功の道が開けると思います。

## 松原 叶 (東海大)

学生生活はとても短いので、時間を有意義に使い楽しんでほしいと思います。

それぞれ部活動や勉強、ボランティア、旅行など、力を入れて目一杯取り組めるのは、時間のある学生のうちだと思います。

学生時代に得たことは、将来の自分のための大きな財産になるはずです。家族や友人、周りの人々への感謝の気持ちを忘れず、1日1日を大切にしていって邁進してください。応援しています。

## 中野 瑠夏 (東海大)

私は高校生の頃に行った漁業者訪問をきっかけに水産の勉強をしたいと思い今の道に進みました。大学進学後、家計の状況があまりよろしくなく、大学院の進学は諦めていましたが、戸田育英財団のおかげで大学院の学費をどうにか用意する事が出来、また戸田育英財団を通じて他大学の学生とも交流することが出来ました。

何か行動を起こす際、「お金」というのはどうしても避けられないネックなものになりますが、そこを助けてもらえれば自分を飛びだせるバネに変わります。ぜひそのバネを利用して色々な経験や挑戦をしてみてください。

## 大久保 健史 (東海大)

戸田育英財団に奨学生として採用される皆さんは、自分軸を持ちそれぞれの大きな夢に向かって努力されていることと思います。そんな皆さんに僕から簡単ではありますが、メッセージを贈りたいと思います。

是非「既存の考えに縛られない」ということを常に頭に置いて、残りの学生生活を過ごして欲しいと思います。現代社会は不透明な部分もありますが、大きな転換期を迎えていることは間違いないです。特に、どの分野と技術を掛け合わせて未来を切り開いていくかが、今後より一層求められてくると考えています。

是非皆さんの感性と頭脳を存分に発揮しやりたいことや興味をもったことは積極的にチャレンジしてください。行動しないことが一番のリスクだと個人的に思っています。

頑張ってください！応援しています！！

## 吉川 清香 (東京音楽大)

学生時代は本当に早いですが、学生の中に 5 年後、10 年後の自分がどんな姿になっていたいか、又はどんな活躍をしたいかを見つけれたら充分なのではないかと思えます。

私は 4 年間で戸田育英財団様からの奨学金を活用し、講習会や海外でのマスタークラスに参加し大学生活では得られにくい刺激を受け視野を広げることが出来ました。

そのお陰様で大学を卒業した今、自分が何を学びどのような人になりたいのかが明確になっています。あとは実行するだけです。社会人になっても共通しますが、自分のやりたい事と同じくらい、人との関わりも大切に過ごせば、後々自分に良き力として返ってくると思えます。周りに生かされている事を忘れずに感謝の気持ちを持って学生生活を送ってください。

## 棚橋 蓮子 (東京農業大)

今、自分のやりたいことや今しかできないことに全力で取り組んでほしいです。もう二度とない「今」を意識して学生生活を過ごしてください。

## 赤澤 史雄 (東京経済大)

大学生活で得た知識や経験は一生ものであると私は言われました。しかし私自身がまだ大学を卒業して間もないためその真意は理解できていません。

それでも感じていることは、悔いのない学生生活を送ることができたということがこれからの人生の自信になっているということです。皆様の大学生活を誰かに自慢できるような素晴らしいものになるように頑張ってください。

## 奥山 竜樹 (明治大)

少しでも気になったことは、どんなことでも積極的に挑戦してください。時間のある学生のうち色々な事を経験し、思い出をたくさん作ってください。

社会人になると、仕事以外の時間をなかなか取りづらいものです。企業人として常に責任ある行動が求められるようになります。時には思いっきり羽目を外して遊ぶことができるのも、学生のうちです。時間を有効に使い、楽しい大学生活を送ってください。

## 宮内 美歩 (立教大)

### “始めるから 始まる”

*すべて、初めは危険だ。*

*しかし、とにかく始めなければ始まらない。*

この言葉は、ドイツの哲学者ニーチェによる『人間的な、あまりに人間的な』に残された言葉です。誰でも最初の一步は怖いのです。本音を言えば、前の人が橋を渡りきるまで待ちたい。

しかし、時間やタイミングは限られているのが現実的です。まず第一歩踏み出してみてください！そこから“人とのつながり”が広がり、同時に自分自身の自信にもつながるはず！！

後悔のないよう、がんばってください！！

## 輿水 康二 (早稲田大)

悔いの残らない学生生活を送ってほしい。そして仲間を大切にしてほしい。大学とはそれまでとは違い、地元が異なる同年代の人が集まる場所である。

そこでは新しい発見、新しい出会いがたくさんある。数年間という長いようで短い大学生活はまさに貴重な時間である。仲間たちと大いに勉学に励み、大いに笑い、感情を共有すると良い。その経験こそが将来の役に立つと思う。

## 松見 沙英 (同志社大)

大学生活は、あっというまに終わります。後悔のないよう、今を全力で楽しんでください。

## 祝田 夏実 (早稲田大)

戸田育英財団のご支援のもと充実した学生生活を送って下さい。自分の将来について、当初から変わるこのない意思是、仕事第一優先だということです。

入社10年間というのは、同期を含め仲間とともに切磋琢磨し、自分を成長させるこのできる絶好の期間だと考えております。他の事柄(結婚・出産・育児など)によってそれが阻害されるのがもったいないと感じております。従って10年間は仕事に専念し、SEとしてプロジェクトをマネジメントする立場を目指したいと思います。

## 新田 令華 (同志社大)

同志社大学法学部を三年次で早期卒業し、同志社大学法科大学院に通うことになりました。一年早く貴財団の奨学生を卒業することになってしまうのはとても残念ですが、かねてから今後の目標としてお伝えしてきた早期卒業を叶えることができうれしく思っております。

学部生としての生活は思いのほか短いものでしたが、法律討論会や政策立案コンテストなど様々なことにチャレンジし、一生懸命に取り組むことができました。貴財団からのご支援がなければ、このような活動はおろか司法試験に向けての勉強なども十分にできず弁護士になるという夢を諦めていたかもしれません。学生生活をより有意義なものしようというモチベーションが私を将来の夢に近づけてくれました。

弁護士になるという夢を叶えた暁には必ず戸田育英財団にご恩返しをしたいと思っています。それと同時にこのご恩は次の世代にも返していくことが大切なのだろうと思います。貴財団が私に与えてくださったものを次は私が他のだれかに繋げることができるよう、これからも一生懸命頑張りたいです。

## 岩城 基展 (立命館大)

戸田育英財団からの支援によって、私を含む数多くの学生がより有意義で充実した学生生活を送ることが可能となりました。

心身の負担や時間的負担が軽減されたことにより、深い学びや経験を積むことができ大変感謝しています。皆様もいただいた機会を逃すことなく積極的に掴みに行くことで自身の成長に繋げていってもらえればと思います。

## 北浦 真生 (九州大)

月並みな言葉ですが、あっという間に過ぎ去ります。どの先輩も言ってきてこられたことです。その言葉を胸に過ごしても何かしらの後悔は残ってしまうものです。それでも声を大にして言いたいことは、悔いなく4年間を過ごして欲しい、ということです。残りの学生生活、大いに活躍されて下さい。

## 苧畑 悠子 (水戸工高)

自分がやりたいことを精一杯やり抜いて下さい。現状に満足しないで、上を目指して努力すればいつかその努力が実を結びと思います。